

第5回加西市未来の学校構想検討委員会

日時 : 令和4年5月30日(月)
14時00分~16時21分
場所 : 加西市市民会館 3F 小ホール

1. 開会

2. 報告事項

(1) 加西市未来学校構想(素案)に関するアンケート調査報告(速報値)について

○会長

本日はお忙しい中、委員の方々にお集まりいただきありがとうございます。今日は全9回のうちの5回目で、徐々に答申に向けての議論ということになります。その際にアンケートが重要な要素になりますが、今日は速報値を報告し、意見をいただきたいと思います。報告事項は2つあります。1つはアンケート調査報告の速報値について、もう1つは今後のスケジュールとなります。では、1点目の加西市未来の学校構想素案に関するアンケート調査報告の速報値について、事務局より説明をお願いします。

○事務局(人口増政策課)

アンケートの質問内容は、自由記述が多いアンケートとなっております。自由記述の取りまとめが、まだ終了していないという段階になりますので、取り急ぎ選択肢での回答についてまとめた速報値となりますので、ご了承いただきたいと思います。

第1章は調査目的を記載しております。第2章調査の概要は、以前お示した内容のとおりでございます。件数につきましては1,414世帯となっており、小学校区ごとにランダム抽出しております。アンケートに必要なサンプル数は統計学上の公式に基づき算出しております。例えば宇仁や西在田地区など母数が少ない地区では、北条地区等に比べて割合が高くなるという状況となっております。

教職員は302名にアンケートを配布しております。配付方法等につきましては各校で配付し、ネットで回答していただきました。回答期限は保護者が4月28日、教職員は4月15日で、合計1,716人にアンケートを送付させていただいております

続きまして2頁。地域代表の方は、区長プラスその他役員、民生委員・児童委員、青少年補導委員、単位老人クラブの会長と女性部長ということで797の方にアンケートを送付させていただきました。先ほどの保護者等と合わせまして合計2,513の方にアンケートを送付しております。

回収率は、保護者が60.4%、教職員は95.4%、地域代表は65.4%となっております。

記載はありませんが、全体の回収率は 66.2%となっております。

第 4 章集計結果ということで、中学校についての質問です。中学校は「北条中は現状維持とし、善防中、加西中、泉中を統合する 2 校案について」であります。

保護者の回答です。頁の真ん中にグラフがあります。37.9%が「素案に賛成」、39.9%が「素案の再検討が必要」、21.9%が「分からない」という結果となっております。

そして、その下の小学校区ごとの分布図ですが、縦軸が「素案の再検討が必要」、そして横軸が「素案に賛成」、そして斜めに入っている点線がちょうどボーダーラインになっており、一番右下に北条があります。この北条小地区につきましても「素案に賛成」の方が「素案の再検討が必要」よりも多いという見方となります。

北条東、北条、賀茂小学校区については「素案に賛成」が多く、逆にそれ以外の小学校区は「素案の再検討が必要」が多いという状況となっております。ちなみに、これは「素案に賛成」と「素案の再検討が必要」の 2 つに分けておりますので、「分からない」であるとか、無回答につきましても省いております。

続きまして、4 頁をご覧ください。中学校についての保護者の方の「素案に賛成」の理由です。こちらを選択肢になっておりまして、一番多かったのがグラフのとおり、「子どもの教育効果に関する事」が 70.7%となっております。下には小学校区ごとの回答割合を記載しています。丸の大きさが割合の高さを表しています。全小学校区を見ても、「子どもの教育効果に関する事」が一番多い状況となっております。

5 頁をご覧ください。保護者が「素案の再検討が必要」と答えた理由です。こちらは「通学に関する事」が一番多く 79.2%となっております。

続きまして、6 頁をご覧ください。次は、地域代表の回答です。中学校素案についてグラフを見ていただくと、32.8%が「素案に賛成」、48.2%が「素案の再検討」が必要、16.3%が「分からない」となっております。分布図は下のとおりで、下里小学校区だけがボーダーライン上にありますが、ほぼ全体をとおして「再検討が必要」となっております。その理由につきましても、7 頁をご覧ください。次に「素案に賛成」の理由です。「子どもの教育効果に関する事」が、保護者と同じく一番高く、66.7%となっております。8 頁をご覧ください。中学校について「素案の再検討が必要」の理由でございます。こちらと同じく「通学に関する事」が 81.3%と一番高くなっております。保護者と地域代表については理由の選択区分に関しては、ほぼ一致しているところが分かります。

9 頁は教職員の回答です。「素案に賛成」57.6%、「素案の再検討が必要」22.9%が、「分からない」が 19.4%がという回答となっております。分布図につきましても、全小学校、中学校、特別支援学校が「素案に賛成」に傾いているということが分かると思います。その理由につきましても、次の 10 頁を確認ください。「素案に賛成」の教職員の理由です。一

番多いのが 83.1%の「子どもの教育効果に関すること」となっております。続きまして、11 頁、「素案の再検討が必要」の理由ですが、「通学に関すること」が 68.2%となっております。以上が中学校についての調査結果です。

12 頁からは小学校です。「小学校は 11 校を存続させ現中学校区の小学校を 1 つの学園とみなして小々連携を強化、推進することについて」の保護者の回答です。グラフを見ると 47.7%が「素案に賛成」、25.8%が「素案の再検討が必要」、26.6%が「分からない」となっております。分布図につきましては、日吉小学校区が若干、「素案の再検討が必要」になっておりますが、それ以外の小学校区につきましては、「素案に賛成」が多いということが分かります。

13 頁は理由についてです。保護者の「素案に賛成」の理由ですが、一番多いのが 56.8%の「子どもの教育効果に関すること」です。14 頁は「素案の再検討が必要の理由」ですが、一番多かったのが 46.8%の「子どもの教育効果に関すること」となっております。

15 頁は地域代表の回答です。49.9%が「素案に賛成」、29.6%が「再検討が必要」、18.2%が「分からない」となり、分布図は下記のとおりです。北条東小学校区は、ほぼボーダーラインとなっておりますが、それ以外の小学校区には「素案に賛成」に傾いていることが分かります。その理由は 16 頁。「素案に賛成」の理由ですが、一番多かったのが「地域との関わりに関すること」が 42.7%でございます。

17 頁は「素案の再検討」が必要な理由です。一番多いのが 55.2%の「子どもの教育効果に関すること」です。

最後に、18 頁からは教職員での回答です。37.2%は「素案に賛成」、47.2%は「素案の再検討が必要」、15.6%は「分からない」となっております。分布図を見ていただいて、中学校の教職員は「素案に賛成」にやや寄っていて、それ以外の小学校、特別支援学校の教職員は、「素案の再検討が必要」に傾いていることが分かります。理由につきましては、19 頁です。「素案に賛成」の理由ですが、69.2%が「子どもの教育効果に関すること」となっております。最後の 20 頁が「素案の再検討が必要」の理由、教職員で一番多かったのが、86%の「子どもの教育効果に関すること」となっております。

以上、簡単ですが、ご説明させていただきました。また、コメントが入った最終案につきましては、次回の検討委員会でお示します。本日は選択肢の割合のみになってしまいましたが、よろしくお願いいたします。

○会長

今説明があったとおり、自由記述欄が集計中ですので、本日はこの速報値をもとに何かを決めるところまではいかないと思います。この数値を見ての感想、意見をいただくとともに、次回に詳細なコメント欄を含めた分析結果も出るということですので、それに向けての留意点等、そんな意見もいただければと思います。

○A 委員

私もランダムに選ばれた1人ですが、このアンケートの集計見たところで「通学に関すること」が一番大きな問題になっていると思います。ここを次回、自由回答を含めて詰めていったらいいと思いますが、本当に広い範囲になっているので、合併の分け方によっても多分通学の方法とかが変わってくると思います。今後、このアンケートに対して通学についてどのような話し合いを持っていくのか、合併の分け方とか、どのようにバスを出していくとか、夏休み中の部活の問題もあると思いますので、その辺りは私たちがここで話し合うのか、あらかじめ教育委員会の方で、そういった提案というものが次回とかに提案された中で、話し合いができるのかなと感じているところです。

○会長

中学校の2校案に関するところで、保護者も地域代表も教職員の方も「再検討が必要」という理由として、「通学に関すること」を挙げられている。一番数が多いということですね。ここにどういった記述があるのか、丁寧に集計していただきたいと思いますが、その後の対応については事務局では、どのように考えていますでしょうか。

○事務局（教育総務課）

次回の中学校の話のときにバスのことについては、ある程度こちらから案を提示させていただいて協議する形で進めたいと考えております。私たちもコメントを確認させていただいて、その上でご提示していきたいとそのように考えております。

○会長

通学に関することについては様々な懸念や不安が記述されていると思いますが、その対応を次回事務局の方から提示するというところでよろしくをお願いします。

○B 委員

私の子どもが6歳と4歳と2歳になって、小学校は西在田地区です。児童数を見てみたらもう4人とか5人とか、もう複式学級になってしまうところです。人との関わりっていうのを小さいうちに慣れさせるっていう観点からみると、小学校を存続させるということは、子どもが将来大人になったときに困りはしないかという不安な気持ちです。

ICTとか、学校の授業はインターネット使ってできるかもしれないですが、普段休憩するときとか、そういう関わりは小学校のときって、とても大事だと思うので、検討をよろしくお願いします。

○会長

小学校の結果に関わる指摘で、保護者と教職員については「素案に賛成」も「素案の再検

討が必要」も理由が「子どもの教育効果に関わること」が多いという結果になっています。

小規模だからいいという意見も多分書かれているだろうし、小規模だから、人との関わりが制限されてしまうんじゃないかという不安の声もあると思います。おそらく両方の意見が書かれていると思いますので、この辺りはぜひ分析の際に示していただければと思います。

OB 委員

アンケートを取っている保護者で、複式学級に当たる家庭がこれから増えていくと思うので、アンケートの見方も変えていかないといけないのかなと思っています。

○会長

そうですね。現時点ということで、判断していきながらも、やはり数年後の変化も見越した上で、当事者も含めて検討していく必要があると思います。

OC 委員

アンケートの中に「分からない」というところのパーセンテージが各項目とも非常に多いと思います。これは次のときに記述の方にも整理して、何らかの形で出てきますかね。どのような理由で「分からない」という答えが出てきているのかをお願いします。

○事務局（人口増政策課）

こちらのアンケートの「分からない」を選択された方につきましても、その回答を選んだ理由を記述いただくようになっており、そのデータは現在集約中です。「分からない」という理由につきましても、皆様にお示しできるよう工夫したいと思います。

○会長

そうですね。いろんな分からなさがあると思います。それをコメントから拾うしかないと思います。教職員の方も「分からない」というのがあるので、悩まれたと思います。ほかにいかがでしょうか。

OD 委員

今日、朝の見守りをしているときに、小学校4年生の男の子たち、3、4年生の女の子たちに「自分たちが中学校1年生か2年生になると統合って話があるけれど、自分たちは統合してほしいか、それともそうじゃない方がいいか」ってことを聞いたんです。

やっぱり、みんな最初は「嫌や、嫌や」と言っていて、子どもたちは小規模校、どちらかというと賀茂小学校は小さい方だと思いますが、その子たちはそれなりにそこがいいと思って過ごしているようです。でも、ある1人の男の子が「野球を習っていて、友達が下里とか他

のところにいるから、統合してもいいかな」みたいな感じで言っていました。友達がいたりとか、小学校が学園構想でしっかり連携が取れていたら、「嫌や」って言っていた子ども、もしかしたら友達がいれば行けるかなって思ったりするので、もっと子どもたちの意見を聞いてあげてほしいなとすごく感じた。中学校の統合だけでなく学園構想についても、詳しく検討していく必要があると思いました。

○会長

子どもの声っていうのも、委員会でも何回も出ています。今回のアンケートは保護者なり地域の方からもそういう声を拾いながら、回答されたところはあるかもしれませんが、子どもには直接聞いておりません。その辺りについてはなかなかデータとしては難しいとは思いますが、おっしゃることはよく分かります。学園構想についてはこの後も改めて説明していただきます。小学校段階でのつながりみないなところも出てくると思います。

○OE 委員

私、びっくりしたのは回収率が低いということです。保護者の回収率が低いのは、子どもさんが、小学生や中学生におられると思うのですが。地域代表の方は65.4%で、子どもさんのおられる可能性は低いと思うのですが。

気になったのは前もっての情報が、ほとんどなかったのではないかと。いきなりアンケート用紙が来て、説明資料は入っていますが、「これ何かいな」と分かりにくいという方もいらしゃったのではないかなと思います。

私事で大変恐縮ですが、ただいま厚生労働省が3年に1回に行う国民生活基礎調査という統計調査が、加西市で私たち56世帯だけですが、私の住む町に入っておりまして、加東健康福祉事務所が窓口になっています。そちらの方から1回目にチラシをポストに投函してくださいと指導があります。2回目には、対象の家に対して「お宅、対象になっていますよ」と伝えてくださいと指導があります。3回目ですべて調査用紙をお配りする。そして、回収するという前準備がかなりあります。そうしないと配っても「これ何や」と言うことになってしまう。

内容はもちろん違いますけども、私が気になるのはもうちょっと前もって、何か説明があった方がよかったかなと。今から終わってしまっているんでどうしようもできないですが、回収率が低いのがちょっと気になりました。

○会長

回収率の数字についてはどうでしょう。私は大学とかで教育関係の調査をしているところな多くの数は返って来ないので、いい方ではないかなと思って聞いていたのですが、事務局はこの数値をどのようにご覧になっていますでしょうか。

○事務局（人口増政策課）

アンケートのパーセンテージだけを見ると、市役所で行っている他の調査に比べると高くなっております。我々も今回のアンケートを実施する上で、出来る限りたくさんの方から意見をいただきたいということで、各団体の理事会や、区長さんには代表区長会で事前に説明させていただきました。基本的にはウェブでの回答を保護者にはお願いし、地域代表の方にはマークシートの回答も可ということで回収率を上げる努力をしましたが、まだいろいろ工夫が必要だったと思いますので、今後注意していきたいと思います。

○F 委員

分からないので教えてほしいんですが、中学校についての質問ですが、中学校は北条中を現状維持として、残り3中を統合するということに対して賛成ですか、反対ですかと聞かれたんですか。2校にすることに賛成ですか、反対ですかと質問したわけでないと理解していいですか。そういうことですね。

○事務局（人口増政策課）

はい。ここに書かれているとおりの質問内容になっております。

○F 委員

分かりました。そうであれば、分け方もちょっと考慮して考えてはどうかという折衷案も出ていると思いますが、アンケートはあくまでも北条中は現状維持のことに関して賛成、反対ということですよ。分かりました。だから、保護者は多分半々に分かれているわけですね。ほぼ4割4割になっているかな。分かりました。

○会長

次の集計のときに地区、校区ごとの「素案の再検討が必要」と「素案に賛成」の割合については、次回に傾向の確認は可能でしょうか。

○事務局（人口増政策課）

会長おっしゃられた地区ごとの反対、賛成の割合っていうのは、出すつもりはないです。というのは母数が非常に少ない地区もあるので、非常に偏りがあり、バラバラになってしまいます。ですので、全体として今回は「素案に賛成」、「素案の見直しが必要」、「分からない」という結果を出させていただきました。

理由をこの5つの選択肢ごとに羅列するだけではちょっと読み取りづらいところがあると思いますので、例えば、「通学に関すること」でもバス通学や通学路の話が出ており、その中でも、いろいろなカテゴリーに分かれていますので、その辺りを整理して、皆様に分かりやすく見ていただけるよう工夫しようと思っております。

○会長

F 委員よろしいでしょうか。

OF 委員

ありがとうございます。

OG 委員

ちょっと感想めいたことですが、私は保護者がどうお考えになっているのかというところを注目しておりまして、例えば3頁の中学校の2校案という素案で、今の2校になると北条中とそれ以外という形になっておりまして、北条東、北条小学校区の方々は「素案に賛成」の方が多く、富田小学校区の方は意外に「素案に賛成」の方よりも「素案の再検討が必要」の方が多く、なぜなのかなと思ったのと、善防中が今1学年1クラスということで、善防中校区で見ますと賀茂小学校区の方々は割と「素案に賛成」の方が多くて、「素案の再検討が必要」の方が少ないです。下里小学校区については逆に「素案の再検討が必要」の方が多くて、「素案に賛成」の方が少ない割合になっています。

それから、小学校の11校存続させて、小小連携を強化するという12頁の結果で言いますと全体的に保護者の方々は、「素案の再検討が必要」の方が日吉小学校区を除いて多い。

その中でも西在田小学校区とか、宇仁小学校区の方も先ほどB委員がおっしゃったように将来的に複式学級になる可能性もあるという中であって、小学校を残すという「素案に賛成」の方が多い結果になっているというところで、そもそもその辺が保護者の意見として、アンケートの結果としては現れていると、そのように感じました。

○会長

事務局の理解もそのとおりだということでしょうか。

○事務局（人口増政策課）

また、コメントを見ながら分析していきたいと思います。

OH 委員

私もアンケートの中身、特にどこの地区がどのような数値を出しているのかなということで、見るのがすごく楽しみで待っていました。例えば、小学校であれば、保護者であれば、どこの地域が一番存続に賛成なのかなというところ。これよく見てみると、規模に関係なくバラバラなところもあるし、やっぱり規模に応じて賛成、反対分かれているのかなと思うところも。ただ全体的にやはり保護者の方がこれだけ学校存続に賛成が多いということも私自身が重く受け止めなければならぬと感じた取ったところです。

ただ、一方で「素案の再検討が必要」と「分からない」がこれだけあるということは、この中にいろいろと疑問とか、こうしてほしいという望みがあることを明らかにして、この会も進めていかなければならないなって感じました。

地域の方に至っては半分が本当に残してほしいとはっきりと表れていまして、その中身は地域の核としての小学校ということを重く受け止めていただいているということも、学校はきちんと承知の上でこれからも考えていかなければならないように思いました。

私一番びっくりしたのは実は教職員でした。教職員がこの11校存続、いわゆる学園構想を続けていこうということについて37.2%が賛成であると。私が学校の職員に「どう思うか」ってたずねると、ほとんどの職員が統廃合という話だったのですが、市内の学校全部を合わせると、職員の中にも教育効果という理由から、これだけ賛成の職員がいるのだと。職員ともう一度腹を割って話をし、中身を聞きたいなと思いました。

○会長

私もそれは少し意外でした。小学校については、「再検討が必要」だという意見が多いのかなと思っていたら、そうでもなくて、今の11校学園構想のいいところを残しながら、課題をしっかりと理解したうえで、学園構想によってその課題をクリアする方法を考えていくべきだという教職員も一定数いると思います。

○I 委員

私も中学校の2校案のところを見まして、3中学校統合したら通学範囲が広がるから、そのことに対する意見もずっと出ていきましたが、アンケートの中でも、不安に思われているということがよく分かりました。あと、先ほども出ていきましたが、北条、北条東、富田の小学校の方々が無条件で賛成かと言えば、そうではなくて、それは自分のところだけじゃなくて、ほかの3中学校の様子のことと考えられて、やっぱりそれって大変なんじゃないのかと思われての結果なのかなと思っています。

今回は数字を表していただいて、今度はその中に書き込まれた内容を吟味していく話でした。今後のスケジュールのところを見ていると、次回にもう一度その分析をするとなっていましたので、その中でも不安に思われていることをどう解消していくのか、こんな方法ってというようなことをこの場で、また意見出してもらって、どうしてもその乗り越えられない課題等があるのであれば、それはまたその場で考えていくような次回の回にしたったらいいのではと感じています。

○会長

この中学校の2校案については、北条、北条東、富田の方も自分の校区だけでなく市内全体のことを考えてくださっているということですね。

○J 委員

今日この説明を受けて感じたことですが、「素案に賛成」の方とそれから「素案の再検討が必要」という方に分かれて、第一番の理由は何かなと見てみたら、賛成するという人は「子どもの教育効果に関すること」が圧倒的に多いですね。そして、賛成できない、「素案の再

検討が必要」という方は、「通学に関すること」がもうこれは圧倒的にほかの理由より多い。

ですから、「賛成」も「賛成できない」のどちらも一つの理由が、一番大きな理由になっています。そこでですけど、この「子どもの教育効果に関すること」なんですが、これは玉虫色の回答が出やすいと思います。

「通学に関すること」、これは分かりやすいです。つまり、校区が広くなり過ぎたら通学に時間がかかる、友達のところに簡単に遊びに行けなくなるとか、それから一体感がなくなるとか、そういうのは我々でも今考えたら分かりますが、「教育に関すること」はどっちとも言えない。学校が小規模でいいのか、あるいはある程度の規模がないといけないのか、どっちがいいのか、それは答えが出てないですよ、まだね。答えが出てない問題だと思えます。その中で教育効果って言われると回答する人は、頭の中でどういうことを考えられているのだろうか。ある人は、学校はたくさん子どもがいて、その中で揉まれてとか、切磋琢磨してみたことがありますけれど、そういうものがいいと思われているかもしれませんし、ある人はそうじゃなくて一人一人に目が行き届くと言いますか、あまり規模が大きくない形で、子どもたちが学ぶ方がいいというヨーロッパ型の学校ですよ。そういうものがいいと考えていたのかもしれない。

でも、両方とも教育効果なんですよ。小規模であっても大規模であっても。だから、この場合の教育効果を問う場合は、規模が小さかったらこういう不都合なことがたくさん出てきます。例えばクラブ活動とか、クラス替えができないとか、あるいは規模が大きくなるとそれは解消できるけれど、今度こういう問題が出てきますということをはっきりと両方条件を出してから、「どっちがいいですか」って考えてもらった方が、そうしたらこういう玉虫色の答えは出てこないのではないかと思います。

今回のこの設問ですと、回答した人がどういう考えで教育効果が望まれると回答したのか分からないですね。大きいのがいいのか、小さいのがいいのかとか。ですから、教育効果に関してははっきり定義をして、設問をしないと。これ定義しないで設問していますので、ここに書かれた答えは、最初に申しましたけども、玉虫色のどっちでも取れる答えになりかねませんか、会長。そんな気がします。

○会長

それで一旦やっているんだという理解はしております。つまり、両方意見が出るような記述を求めて、小規模だからいいと、小規模だから解消してほしい、そのところを自由記述、ちょっと分析をどう丁寧に見て、その懸念するところについては教育委員会としてどうフォローしていくのかという。今の素案、学園構想っていうこと自体が、小規模を大事にしながら足りないところは学園構想で補おうっていう、そういう考え方だと理解しています。

それに加えて、さきほど B 委員がおっしゃったような具体的な懸念も出てくるのではと思います。再検討を求める意見については、その内容を丁寧に拾いながら、それにどう対応するかについては、また事務局の方から案を出してもらったらいいかと思います。そんな考え方でよろしいでしょうか。いかがでしょう。

○事務局（教育総務課）

アンケートのコメント、この後、皆さんでご覧いただいて、さらにどういったご意見が多いのか、いろいろご意見はたくさんあると思いますが、最終的に一つの方向性を示していくという形になろうかと思しますので、皆さんにご意見を見ていながら、方向を定めていけたらと。そういう形で次回は事務局のほうからも提案を出させていただいて、それからコメントの方もご覧いただいて、議論いただけたらとそのように考えております。

○J 委員

それでしたら、小学校の間は学園構想ですから、できるだけ小さい今の規模を守ったまま、いいとこ生かしてやったほうがいい。ただし、中学校に上がるとある程度の規模が求められる、そっちのほうがいいという。そこでちょっと転換するわけですけど、その部分のところは保護者の方はよく理解して答えを出していると思っていいわけでしょうか。そこがちょっと私引っかかっている部分ですね。

○会長

そうですね。そこはコメントで重視されている内容を拾いながら見ていくしかないなと思っています。今回の速報値でいうと、極端に再検討が必要だということまでは至っていないという印象です。過半数が「素案の再検討が必要」としている状態には、保護者も地域代表も教職員もないという結果が出ていますが、おっしゃるとおり再検討を求める人は一定数いますので、そこはやはり丁寧に見ていかないといけないと思っています。

○B 委員

アンケートの集計の方法について聞きたいのですが、例えば西在田小学校の場合だと複式学級に当たる親御さんとそれ以外の親御さんの割合とは大体半々ぐらいでアンケートを収集されたのでしょうか。

○会長

無作為っておっしゃってましたかね。

○事務局（人口増政策課）

アンケートの対象者につきましては、小学校で何割というものではなくて、各小学校区に住んでいらっしゃる0歳から15歳までの子どもがいる世帯からランダムで抽出しております。西在田地区につきましては、先ほど小規模の地区の方が、割合が高いとお伝えしましたが、大体8割以上の方がこのアンケートの対象とさせていただいております。

○会長

まだ意見があるかもしれませんが、もしあったら、また終わりにでも追加していただければと思います。速報値についてはここまでとさせていただいて、報告事項の2点目、未来の学校構想検討委員会のスケジュールについて事務局より説明いただきます。

(2) 加西市未来の学校構想検討委員会スケジュールについて

○事務局（教育総務課）

今日まで5回で来ております。今日の5回から最終回第9回までは毎月の開催ということで、最終月曜日に日時を調整させていただいております。全てこの会場、2時から予定です。6月27日までの間に視察ですが、場所も日時もまだ定まっておきませんので、空白になっております。申し訳ございません。ご報告ができない状態ですが、確定次第ご案内させていただきたいと思っております。

6月ですが、今回アンケート分析単純集計ということで、今回はクロスと書いてあります。クロスも今回、対象者、校区ごとにクロス集計を入れております。6月のアンケート分析は今お話もありましたように、自由記述を一覧ですらっと並べるのではなく、少し整理して、皆さんに見やすい形でまとめたものをご用意し、アンケート全容を把握させていただきたいと考えております。6月はアンケート分析と、それから今先ほどもありましたように中学校では2校統合案、バスの話、これも事務局でお話させていただきます。学園構想もこの後の話がありますが、引き続き学園構想の審議もしていきたいと。

小学校に関しては、B委員からも複式学級のお話がありました。この点もさらに突っ込んで審議をしていきたいと思っております。今度の第6回というのがその後の7回、8回の答申レビュー、答申案の審議に繋がっていきますので、この6回が非常に大事なところだと思っております。この答申の大きな方向性とか、方針というものをこの辺りで固めていくというところに次回が来ます。7月は答申書案を、これも提示させていただいき、皆さんでご審議いただき、第8回でまたその審議をさらに深めてもらおうと。そして、予定どおり9月の26日に答申ということで、できましたら市長にも出席いただいて、答申書を渡すという流れでいきたいと思っております。

実際に答申書を渡す部分は前後しずれ込むかもしれませんが、今現在のところは9月26日めざして進めていきたいと考えております。スケジュールの説明につきましては、以上です。

○会長

スケジュールについて各委員からのご意見、ご質問等ございませんでしょうか。

○J委員

今の説明で第 6 回が山だと、一番大事だという話でしたけれど、この中に中学校統合の審議も入っていますね。そこでですが、今回こういう最初の教育委員会の素案、中学校統合に関しては 3 中合併で北条中残すという形でアンケートを取られたわけですけど、この 6 月の審議に関してはそれも含め、なおかつ東西案とか校区、あるいは南北 2 校案っていうものも前、そういうものを提示されたと思います。私は以前からこの 3 中学統合案に関しては、ちょっと再検討が必要ではないかということはずっと主張してきたわけですけど、6 月も 3 中学統合で北条中を残すという最初の案だけではなくて、校区を南北に分ける、統合中学を造るにしても 2 つを造るにしても、南北にする、あるいは東西で 2 校区造る、あるいは教育委員会の最初の原案のように 3 中 1 校の 1 校区と現在の北条校区 1 校区の 2 校区と、そういうものが 3 つありましたね。3 つを含めて考えていくって理解していいですか、よろしいでしょうか。

○会長

事務局お願いします。

○事務局（教育総務課）

具体的な議論は次回で考えていきたいと思いますが、今、私どもで考えている流れとしましては、素案に沿ってまず、なぜこの 2 校案になったかというところのお話を、今おっしゃられていた南北案、東西案もありますが、なぜこういう形になったのかというところを次回のときに、お話をさせていただきたいとそうように考えております。

○J 委員

ちょっとよく分からない。それで、そのときにそれ以外の案もありますよね。とにかく中学は今のままで 4 校存続するのが無理なんだと。とにかく統合廃合して、大きくまとめないと無理なんだと。そこまでは大体この委員会の中で意見がまとまってきたかと思いますが、さて、3 中統合でいくのか、私、最初から申していますように大変大きな校区になりますが、その見直し案として南北案、東西案みたいなものを出してこられたのですが、これもどうなのかとかいうことで、その辺りはどうなんですか。もう 3 中で大体決まっているけれど、ついでに出しといてみたい感じがになってしまうんですが、南北案なんかもなかなか捨て難い案だと思うんですね。

ちょうど加西市の北と南で北条校区は分割されることになりましてけれど、2 つに分けられて校区の面積も 75 平方キロメートルちょうど半分半分です。これが最初の教育委員会の 3 中統合案ですと、統合したほうが 130 平方キロメートルっていう大変大きな面積になりますよね。北の端から南の端まで 20 キロ以上ある。これが北部と南部に分けるとちょうど 75 平方キロメートルで半分になって、大体地域性もこの南部の賀茂、下里、九会、富合、北条東辺りは地域的にも割と一体感がある。今度北側の泉中の校区と、それから北条小学校、富田小学校、これは合わせて 1 つにしてもそれほど違和感はない。

しかも 1 つの校区の中にいわゆる市街地と、それから農村部両方が含まれますから、北も南も。バランスのよい学校ができるのではないかと考えるわけですね。

ただ、現在ある北条中学校区、分割するのはどうなのかというそういう反対意見があると思いますけれど、しかしこれなかなか捨て難い良い案だと思うので、この南北案というのも北条中学分割できないだろうという、何か最初そういう前提を置いておかないで、北条中は不可侵ではないということで、それも含めての、もうこういうことを 1 回決めてしまうと、もう何十年この後変わらないのですから、南北案も含めて聖域を作らないこの検討の方をお願いしたいと私は思います。

○教育部長

次回の 6 月にどういった案を示すのかという問いですが、今の段階でどういった案を示すかということは申し上げられません。というのは、アンケートの詳細分析がまだです。

ですので、この場で約半年間頂いたご意見、アンケート、個別意見も含めた総合的な結果の集約の後に、我々として示す案は 1 つには絞ります。それを 6 月にお示しするという考えです。

○J 委員

ということは、南北案については話をする時間がないということですか。そんなふうに聞こえたのですけど。

○教育部長

J 委員から 2 月でしたね。中学校の議論したときですよ。そのときからお考えは十分承っています。だから、それを踏まえて、その他の委員の方々の意見も踏まえて、アンケート結果も踏まえて、事務局は当初に素案を示しています。これは相応の考えのもとに作ったものだと考えていますが、それを絶対視はしていませんといことは申し上げてきたと思います。これらの今日までの過程を経て、見直す余地は当然に持った状態で、この第 1 回目から検討委員会開催してまいりました。この 5 月までプラス、アンケートの完全集約を経て、素案がどういった形に見直されるのかというところの結論は一定事務局として出したいと。それを示す日が次回 6 月で、その 6 月に示す案は我々の検討を踏まえて一案を示す。そのようにご理解ください。

○J 委員

ということは、まだ南北案はこの場で話し合ったことがないので、6 月に話し合ったらいいということですね。そういうふうに理解したらいいですね。

○教育部長

我々とするれば、南北案とか、東西案とか、現在の素案とか 2 校にするといっても複数の

パターンは考えられますが、我々が考える 1 案はお示したいという考えです。その示されたと言いますか、私たちがお示しする 6 月の案に関してのご意見は賜りたい。そういう場にしたい予定でございます。

○J 委員

最初と一緒にですね、結局ね。最初に 3 中統合案を出されてそのままずっときたわけですが、それからアンケートとかいろいろあって現在に至るわけですが、その間に南北とか東西とか、こういうのもあるよっていうのを 1 枚ペラッと紙は頂きましたが、これについてこの委員会でそれぞれ意見を出し合った記憶はありません。

一番最初の状態に戻っているというか、3 中統合案は教育委員会の案で、素案ですから、それをアンケートが済んだけれど、もう一回出すということで、ほかにも最初は 4 中学を残せないかという意見もありましたよね。地域の核だから中学は残したらどうかという意見もありました。それから統合したらいいとか、あるいは 4 中学を 1 つにまとめたらいい、1 中学の案ではどうかとか、いろんな意見が出ましたけれど、その中で大体やはり 2 校に統合すればいいのではないかとこのころに流れが決まってきたように思います。

ただし、その中で東西、南北、3 中 1 つについては詳しく話をした記憶がないので、これに関しては教育委員会が最初に提案された案がそのままもう 1 回出てくると、それに関して私たちがそこで意見を言わせてもらえばいい。そのときに私の希望としては東西案とかも、もうちょっと時間をいただいて、ゆっくり東西案の可能性、初めからこれはあくまでもおまけじゃなくて、東西案というのも有りて北条中学の今のまま残すってだけじゃなくて、東西案有りという形で議論に掛けてもらいたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○教育部長

次回に我々が示す案は、今は決まっていません。素案と例えば同じものをお示しすることもあり得ます。アンケート結果を踏まえて 2 分割の仕方が変わることはあり得ます。ただ、今の時点では申し上げられない。それはなぜかという、アンケート結果の詳細分析が済んでいないからです。ですので、6 月のこの場で我々が示すものが変わっておる場合も、同じ場合も今の時点ではまだ決定されていないようにはご理解願いたいと思います。その上で次回お示したものに対しての各委員さん方のご意見はまた改めて受け止めたい、そういう考えです。よろしいでしょうか。

○J 委員

ざくっと言えば、もう折り紙つきで、もうほぼこれに決まったけれど、みんな聞いてくれるかっていう形で 6 月出してこないということですよ。それだったら、ちょっと嫌だな、困ると言っている。今まで半年やってきたその結果が 3 中 1 つで、そして北条町存続でしよう。それでアンケートを出して、結果も出たし、もうこれを中心に考えてくれと言うのであれば、ちょっと違うのではないかと私は今言っているわけ。

○教育部長

事務局は様々な意見をお伺いしました。何らかのやはり方向性は示すべきと考えます。それを2案皆さんにお示しして、この場でその方向性を見定めるというのは、この会の運営として適しているとは考えていません。我々は一応最善と思われものをお示したいのです。

そうではありますが、ここのお集まりの委員の皆さんもそれぞれご意見は異なります。我々は次回示す案はまだ決めていないと言いながらも、何が出てきたとしても各委員さん方の見解は、全員が一致することは恐らくないです。

そういう状況の中でも方向性は見定めて、9月の答申に向けて歩みは進めていかなければなりませんので、その部分をご理解願いたいと思います。事務局案としてお示しするのが全員の了解が取れるものであればいいのですが、事務局とすれば市教委としての考え方を含め、承ったご意見、アンケート結果などをトータル的に考えて、最善と思われるものを案としてお示しする。その形は取らざるを得ないと思っております。

○J委員

だから、南北案をここで討議も議論もしてないのに、どうやって今までのお話を受け止めてという言葉が出てくるのか分かりません。その話をして、次の段階で南北も東西もいろいろ話をしてみて、最終的にこれがいいと思いますという答えが出るのは分かるのですが、それをやってなくて、やってないわけですから、なぜ次に教育委員会が答えを出せるのかっていうのは分からないですね。

○事務局（教育総務課）

今も部長からありましたように次回にその話をさせていただきます。それは何かというとアンケートの一応中身が分かった上で審議していただく前提なので、先の話はできませんが、ただ2月にこの話は私の方から説明をさせていただいていると記憶しています。なぜ、南北案がダメなのかという話は、例えば北条中、もっと言えば北条小学校、北条東という小学校の地域が分断されてしまうという話があるかと思うのです。小学校校区は残していこうという話をしているのに、片や中学校を統合するのに小学校区を分けてしまうという、そこがやはり小学校と中学校とでやはり矛盾するのではないかっていう話をしました。

それから、やはり人口の比率で言えば北条がやっぱり多いので、均等に割ろうとすれば北条を分断しないといけない。でも、北条を分断しないようにすれば、やはり北条の方の比率が多いので、何年か先にはやはり北条の方の人口が多くなってしまいうので、2校のバランスが何年か先には悪くなると、その話を2月のときに何案かお示し、説明させていただいた経緯があると思います。これについてもご意見をお聞きしたと思う。

この話についてはこれまでの話なので、この部分の説明はできますが、今度はそのアンケ

ートを頂いた上でどういう形に持っていくかというところについては、やはりいろいろご意見はあると思います。市としましては皆さんのご意見いただいて一つにまとめていく必要がございます。これは検討委員会としては宿命だと思っておりますので、その辺りは最終的に皆さんにご意見をいただきながら、一つの形を目指していきたいと考えております。

今、この場でこれでいきますという話は絶対できませんが、6月のときにはそういう形でお示ししたいと考えております。

今、おっしゃられた部分の議論については、またそのときに必要になればお話することがあるかもしれませんが、現状ではこのように考えておりまして、次回の6月の予定にさせていただければと思います。

○J 委員

すみません、大変しつこくて申し訳ないですけど、北条小学校区を分断するのはおかしいって話ですが、北条東小学校を南に引っ付けて、北条小学校と富田小学校は北に行くわけでしょう。だから、小学校区が分断されるわけではないじゃないですか。

○事務局（教育総務課）

いろんなご意見があると思います。本当に人口でキッチリ分けて、キッチリ線引っ張ったらいいというお話もありました。だけど、やっぱり小学校の構成する中学校区っていうのは同じ小学校で、同じ中学校行っていく方が、いろんな考え方ありますから、それが絶対正しいかどうかは分かりませんが、皆さんで考えれば「こういう方向がやっぱり自然ですよ」という流れの中で、いろんな組み合わせを考えていきますと、こんな形がいいのではないかということでお話をさせていただいております。

これが絶対にとか、そこまでの決めつけはしているつもりはないですが、バランス的に考えれば、この形で出来るだけ難が少ない形、2校になるので、いずれにしてもバスで行かないといけませんから、遠くなる場所は必ずどこか出てきますが、やはりでもそうかと言って、小学校と中学は別々になるよりはいいと思いますので、これはまた次回の話になるかもしれませんが、2月のときのお話では、そのように進めているということでもあります。

アンケートにつきましても、今、F委員から質問がありましたように、あくまでもこの3中学校と北条中の2校案についての質問をお聞きしているところですので、それについてのご意見を踏まえた上で、最終的にどの2校案でいくのかっていうのを6月までにこちらの方で考えて行きたいと思っております。そこは来月の議論ということで、何とかご理解いただきたいと思っております。

○J 委員

もうしつこくなるのでこれ以上言いませんが、小学校と中学校の校区が違うっていうのは、賀茂でも下里でも、それから九会の方でも今の案ではそうなるわけですからね。ならないのは北条だけです。他は全部なるということですから、そこはちょっと認識していただき

たいと思います。それから、バランスがいいと言われましたけど、どう見てもバランスがいい校区とは思えないわけですが、そのこのところもどうなのかと。この地図を見てもバランス悪いなというのは分かるわけですが、その辺りも、もう言いませんけれど、次回議論させていただけたらと思います。

○A 委員

今、東西とか南北で分けるという案とかで、合併のことを中心に考えていたのですが、令和 8 年のときに、いざ統廃合が始まるときに、現段階で学校の子たちが、うちの娘は令和 8 年にちょうど中学校 3 年生になります。もしも、今の南北案のときに北条中学校に行けば、中 3 のときに学校の中で分かれてしまうのではないかとふと疑問に思いました。

J 委員のおっしゃることもすごくわかりますし、普通に今、ゼロからの状態で分けるのであれば本当に痛み分けじゃないですけど、北条の子だけ別に何も今の状態の案では何もないなって思っていたのですが、大事な時期、中 3 のときに学校内を分けてしまうところに対して、親御さんたち、まさにうちは令和 8 年中学 3 年生なって、合併するときはどうなるのかなって、その辺を踏まえて合併案っていうのは、ただ引っ付けるだけの意見はあったんですけど、保護者として、さあ始まりますってときにどういうふうに分かれるのかなっていう部分も含めて考えるべきではないのかと、子どものことを考えるならば、そういうことも含めて、統廃合っていうのは慎重に考えないといけないのかなと。

ただ、私たちの意見だけでなく、子どもたちの意見であったり、今から分かれる前に心の準備であったり、そういった統廃合にならざるを得ない状況も、子どもたちにはっきり話せばいいと思います。人口が減り、こうなるとこういうメリット、デメリットがあることも、しっかり子どもたちに話した上でしないと、中 3 のときに大混乱、うちも加西中が 3 つ重なりますって言ったときにすごく混乱するのではないかなと。当事者の立場で言えば、その辺りも教育委員会の方たちにもそういった視点からも考えていただきたいと、今分かれるときに、実際自分の娘がその時期に当たる保護者の立場として感じました。

○会長

貴重な意見ありがとうございます。

○F 委員

先ほどから思っているのは、ここは意思決定の場ですよねということだと思います。今日で何回も委員会、この会議をしてきて、おっしゃるとおりそれぞれの思いっていうのがあるから、それを全て生かして案がとおるっていうのはあり得ないと思います。事務局から提示されたみんなの意見を調整してこうするというのは、それでオーケーかなと私は思っています。今で行くとどうも北条中が残ってあとクロワッサン型で、それこそ合併していくのになって、A 委員がおっしゃるとおり、もう 3 年生になるときにそこに分けられるというその痛みも子どもたち大きいだらうなってよく分かります。

最善はなくても、ちょっとその次ぐらいと思っています。私は本当すごくこの会を通して思うのは、何で子どもに意見を聞いてくれないのかと思います。合併するにしても、分かれるにしても、どちらにしても子どもたちの思いがあります。意思決定に子どもを入れてくれないのかと思います。というのは、大きい話にすると18歳で選挙権が認められる形はできたけれど、世界の子どもたち、日本の子どもってそういう意思決定っていうことを経験してきてないので、本当選挙行くのも率が下がっているし、自分たちで何もできないと思っているし、本当に子どもたちが一番当事者になるのに子どもたちの意見を聞いてほしいなど。さっきD委員さんがおっしゃっていたことですよね。

私らはちょっと語弊があるかもしれない、私の仕事の関係でもあるんですが、女子どもの意見は聞かないという文化の中にいます。最近女の人の意見はこうやって聞いてもらえるようになりましたが、子どもたちの意見をなぜ聞いてくれないのかなってすごく思います。

子どもたちはそれなりに説明をして、こうなるかもしれないんだけど、そしたら、あんたたちはどんなことが嫌かなとか、どんなことがいいかなっていう、ある意味希望を持たしてやるような学びを仕組んでやってほしいと、意思決定に参加させてほしいなど。自分たちが考えたことが小さくても、例えばバスのデザインなんかで子どもたちがやったとか、そんなことでもいいと思います。やったことが見えたというのが、こういう大人の都合で社会の都合で子どもたちにリスクを負わせるのであれば、そこにもう一つ子どもたちに希望を持たせてやるような取組みをぜひ教育委員会や学校で進めていただけたらなと思っています。

○会長

子どもの意見を取り入れる、意思決定に参加っていうところはなかなか難しいとは思いますがけれども、今後小学校、中学校が変わっていく過程で子どもたちの意見を吸い取れるように、そういうことは大事なことだと伺いました。

それから、この検討委員会での議論自体は大人の都合ではなく、子どものためにどうなるかということで議論している場ではありますので、そういうつもりで我々も議論をしたいと思っております。子ども意見表明権は、子どもの権利条約の中にも入っていますが、日本はそれに遅れています。加西市とか兵庫県っていう話じゃなくて、現状も確におっしゃるとおりの部分もありますけれども、可能な範囲で子どもたちの意見もどこかで吸い上げるような機会があればいいと思いながら伺いました。

それでは、加西市立小学校での学園構想の事例案ということで資料が22頁になります。昨年12月に学園構想を素案で示しましたが、その中身が見えない、その良し悪しの判断がつかないという意見がありました。また、学校現場からは学園構想の実施が教職員にとって大きな負担になるのではないかと先生方のご意見もいただいているところです。そのことについては、前回4月の会議において、次回何らかの形でその学園構想を提示したいと事務局からの回答がありました。そこで、今回は学園構想の事例案について事務局から提案をいただいて、各委員とともに確認をしていきたいと思っています。それでは、事務局から説明

をお願いします。

3. 協議事項

(1) 加西市立小学校における学園構想の事例（案）

○事務局（学校教育課）

先ほど委員長からありましたように学園構想の具体についてのイメージ、なかなかしにくいといったご意見を頂戴しております。また、市内の小学校の規模がそれぞれ異なることを踏まえ、また、9月の答申に向けて具体像を共有する必要があることなどから、22頁に事例案をご提示させていただきました。

まず、学園構想の狙いを改めて押さえさせていただきたいと思います。全国的にも課題として議論が出てきております小規模校における教育的なデメリットが加西市においても顕在化したことがこの案の発端です。そのような中にありまして、加西市教育がめざします3C、挑戦、協働、創造の資質能力に基づく次世代型人材の育成についてデメリットを当初素案の中では「解消」と申し上げていましたが、いろんな議論を聞く中で、デメリットを「緩和」しまして、教育効果を上げていくことが不可欠だと考えています。学園構想によりまして、小小連携教育のさらなる発展に取組むことを手立てとしていくことを提案させていただきました。

第4回までの検討委員会におきましては、次のようなご意見をいただきました。学園構想が一番必要になるのは少人数学級の学校同士が連携を取っていくこと。一律に学園構想を行うような素案になっているが、加西中校区、北条中校区、善防中校区では当てはまりにくいのではないかと。やはり、重きを置くのは泉中校区の小学校であろうというご意見でありますとか、小学校の北部の2校は全学年単位学級で、しかも複式の学級も出てくる。

一方、北条地区の2校は減少するけれども、そんなに減らない。学園構想の概要はかなり違うということ踏まえれば、この辺りの対応が先生方を中心にご意見を賜りました。そこで、資料1をご覧くださいと、このようにご意見の中で学校の規模による分類が必要ではないかと考えました。おおむね1学年2学級、あるいは2学級ある学校大分類校としました。ご覧の3校です。決して2学級ある学校が大規模校とは言えませんが、ここでは加西市の学園構想の中における定義としまして、大分類校とご理解ください。

次に、小分類校をご覧くださいと、兵庫県教育委員会の規定する学級編制基準に基づきまして、令和7年度から2、3年生が複式学級となる西在田小学校と令和8年度から2、3年生が複式学級となる宇仁小学校を小分類校とさせていただきました。大分類校、小分類校の間に当たるのが残りの6校ということになります。この6校は1学年1学級、下里

小学校だけが7クラスとなっており、1学年だけ2学級ありますが、おおむねの基準から言うと1学年1学級という分類となっています。

次に、この学校規模ごとの小小連携、学園における教育活動の事例を検討して、お示しさせていただきます。それが2です。この事例は事務局で検討したものとともに令和3年1月に市内小中特別支援学校全16校から教職員約40名強の者に参集してもらい、加西市の未来の学校についての意見交換会を開催した際に、学園構想や小小連携教育によってデメリットの緩和を図れるとすれば、こういった具体的な案があるだろうかということ募ったものであります。さらに、本年度に入りましても小学校や特別支援学校の校長先生方にも所属教職員からの意見やご自身の持っている案を聞かせてもらい、それらをまとめたものが2の表であります。

取組む事例は、3つのカテゴリーに分けています。1つ目は、ICTを活用したオンライン遠隔授業などです。児童は自校にいながらオンラインで授業をするイメージを想定してください。具体的事例としましては、①通常の教科学習、これは国語や算数といったものですが、通常の教室で行われる授業を挙げております。こちらは小小の連携交換では、実施に大きな効果を見込まれる取組としまして、○でお示しました。ここで△、空欄についても説明をしておきますと、まず△ですが、これは学園構想による小小連携学習を導入する際に、対象となる児童の人数がやや多くなることなどによりまして、場の設定などに工夫を要するけれども、その上で教育的な効果が見込めるであろうとしたものです。空欄は大大、大中の学校での授業は小規模校のデメリットを緩和し、かつ合同で行うことにメリットを上げることについては、少しやはり人数が多くなることによって困難な部分も際立ってくるということで、そういったものから考えまして△、空欄ということで効果がなかなか難しいという位置づけとさせていただきました。

同様に①で説明しましたが、②で各教科や特別活動などで児童同士の話し合い活動、討論会など意見交流型学習につきましても、小小、中小連携で効果が見込められると考えました。さらに、大きな集団となります大大連携ではICTを活用することであれば、実施すれば効果も期待もできるけれども、かなりの工夫も必要であろうということはお意見の中からも聞かしていただいています。③の発表会型の学習も同様としました。

ここで、小小の連携についてですが、学園構想は例えば泉学園であれば4校で実施するのではないかというご意見があろうかと思えます。つまり4校でやるのに、西在田小学校と宇仁小学校だけの連携という枠組みはないのではないかとと思われるかもしれませんが、ここについては4校が基本とはなりますが、2校での実施も柔軟に行うことも効果があると想定しましたので、あえて小小の2校もありますので、明記を2校として提示させていただきました。

2つ目は連携校のいずれかに集合する合同での授業や学校行事などです。これは連携する学校の児童がどちらかの学校に集合して、リアルな対面での授業、学習活動、学校生活を

共にするというものです。①から⑦に学習の一場面をお示ししまして、それぞれの効果の度合いによって、○、△、空欄と分類しておりますのでご覧ください。3つ目は郊外学習を合同で実施するものです。2つ目ナンバー2と同様で対面での合同学習となります。

こちらにつきましても、効果の度合いで分類をさせていただきます、○、△、空欄と分類させていただきました。それぞれ現在やっているものもありますが、必要な手立てとして一番右端に書いていることを事務局としては、何らかの手立てをしながら実施することで小規模校化している学校のデメリットの緩和を、今学ぶ子どもたちのためにできないかと考えております。実はそういったことは、例えば泉中学校区の4小学校では既に通常の教科学習、4校合同で生活課の授業を行ったりであるとか、自然学校も新型コロナ感染の影響のなかった令和元年度以前に実施したりしています。この辺り現場の先生方にまた、ご意見、具体例をいただけたらと思います。冒頭にも申しましたけれども、学園構想の具体的な内容は素案の説明の際にも事務局の方から何度かありましたが、学園構想の具体的な内容というのは、本案を参考としながら学校教職員が学校関係者の意見や地域の教育資源を勘案しまして、計画実施、評価していくことを提案してまいりました。

また、学校の意見を聞く中で、学園構想のさらなる発展型として、児童の教育活動のみならず、保護者の活動、具体的にはPTA活動ですとか、子ども会活動、こういったものも今後合同化も考えられるのではないかという意見も現場からもいただいております。

以上、学園構想の事例案の事務局説明を終わります。

○会長

では、この提案につきましていかがでしょうか。ご意見、ご質問ございますか。

○B委員

中学校は人数が少ないから、合併、統廃合とか考えていますが、西在田小学校でも人数少ないのに何か4、5人の複式学級ではちょっと、小学校って勉強だけじゃないじゃないですか。何かもう少し子ども同士で普通の遊びとか、そういうのが奪われるって思うと何か辛いなっていうのは保護者としては思います。

○会長

複式に関わる授業内外の課題について、事務局の方で何か今の時点でお考えはありますでしょうか。

○事務局（学校教育課）

検討委員会の中でも再三こういったご意見を頂戴しました。小学校長の委員や、PTAの方々からもそういったご意見をいただいたことは、B委員がおっしゃったことにもつながると思います。確かにICTで学習をやったからといって決して解消するものではなくて、申し上げましたように緩和でしかない部分はあります。

ただ、そういったことをしながらも異学年での学習であるとか、ICTによる連携学習をやりながら、今後保護者の皆さんが求められることがあれば、小学校についても考えていくということが事務局、素案の中にも出てきております。貴重なご意見だと思しますので、承りたいと考えております。

OF 委員

これから子どもたち大きくなって社会に出たとき、また出るまで、例えば大学行ったときとかでも、ICTを活用した授業とか、就職したときには、仕事で会議に使用することが増えている時代です。小学校の間からこのようなICTを活用して、こども園でも随分とインターネットを活用して子どもたちが調べたりとか、いろいろ操作したりしていますが、小さいときからこのような環境に慣れるっていうのは、何か近い将来すごく大きな力になるのではないかなという思いもしております。

ただ、このようなICTを活用したオンライン遠隔授業をするに当たって、先生たちの事前の打ち合わせであるとか、振り返りであるとか、今でさえ9時、10時まで残って、お仕事をされている先生たちの業務が、ますます増えるのではないかなというようにも心配したりします。そこは、どうやったら効果的に、また先生たちの業務改善につながるかっていうことも検討しながら、前向きに取り組んでいくことはとてもいいことだなと感じています。

あと、子どもたち同士で一緒に遊んだりという、本当に4人や5人ではなかなか群れて遊ぶこともできにくい環境にある学校もありますが、少なれば少ないだけの良さもありますし、また地域の力もお借りすることもできます。毎日ではないですけども、バスとか用意して下さって、ほかの学校に行ったりして時々出会う、またICTでつながって、今度出会えたときの喜びっていうのは、毎日出会う以上に大きいということも考えますので、今のICT活用はとてもいいことだなと思っております。

OD 委員

F委員、A委員が言われていましたが、大人がこうなってほしいとか、こういうふうにした方がいいのではないかという願いとか思いと、子どもが願っている思いというのは違うのかなと思っていて、私は賀茂小学校で1学級の学校で、複式学級になると親御さんの気持ちはまた変わってくるとは思いますが、子どもたちの話を聞いていると、「クラス替えがないのいい」っていう子もいますし、「ないのがさみしい」っていう子もいます。

先生たちの目がすごく届くっていうことを私は感じていて、自分がいたとき、小学校は3クラス、中学校は7クラスでしたが、自分がすごくしんどいことがあったとしても先生に言えるっていう人間関係っていうか、そういうものではなかったのですが、実際、保護者として、子どもとして、先生との距離が近いので、すごくいい部分もたくさんあって、社会に出るために耐えるための人間性っていうのは、多いから培えるとか、少ないから培えないと

かそういうのではなくって、あるいは出会う人たちだったりとか、先生たちだったり、もちろん親だったり、地域の方たちの愛情とかで、人が受けるべき人間性の基礎っていうのは、そういうところからももらえたりするので、何かそういうところは地域とか、親とか、先生たちに補ってもらったり、また少人数でも年上のお兄ちゃん、お姉ちゃんと一緒に遊びながら、培いながら、学園構想としては別のそういう地域で暮らしている子どもたちの接する、そういうことがあって、また体育、音楽とか、写生会とか、ここに書いてあるように何かのイベントと一緒にするとか、そういうことがあれば、さっきも言いましたが、小学校の子に聞いたら、「中学校が大きいのが嫌や」って言う子どもたちもいるので、そこで友達関係を学園構想で培いながら、中学校へ向かって行くっていうのが、私は今聞いていて、そういうことだと思いました。

○J 委員

先ほどの説明を受けまして、特に 2 番の規模別学年教育活動の事例で、○、△がたくさん入っているこの表ですけど、特に学園構想でメリットをたくさん受けるのは、小規模校、ここで小にしているところですね。中もなかなか、大分類の学校は 1 つの学校である程度のところができるので、これはそれほどではありませんけれど、特に小規模の学校はほとんどが回るということで、なかなか期待が持てそうだなと思いました。

特に 2 番の STEAM 学習の発表会とか、体育、音楽、写生大会、クラブ活動とかありますけれど、私は中でも一番聞かせていただきたいのは、加西市が取り組まれる STEAM です。STEAM 教育というのを小学校の学園構想とか、小学校の教育の中でどういう、どの程度の真ん中に据えて進めていこうとされているのかということについて、以前から関心を持っております。STEAM にはサイエンス、科学、テクノロジー、技術、エンジニア、工学、それから最後の M は数学でしょうか。割と理科系の総合的な力を伸ばしていくっていうものが 4 つ入っていますが、真ん中に A が入っているので、アートというか学芸と、リベラルアーツの自由学芸のアートだと思いますが、学芸というところ、これが真ん中に入っているというのは、私、大変期待を持っているところです。今の時代に合わせたといいますか、ついていけるようないろんな技術やら考え方、そういうものを身に着けるのはもちろん大事ですが、AI では絶対に代替できない感性とか、情操教育とか、そういうものは AI がいくら発達しても代替できないんですよね。

例えば、AI は人を感動させる絵はできないと思います。絵描きさんは命を削って絵を描いています。音楽もそうだと思います。それぐらい一つの人間の内面と言いますか、もうそこは宗教に近づいてくるのですが、そういった絵とか、あるいは詩である言葉の世界とか、音楽とか、そういうものに出てきますので、そういうものを味わえると言いますか、それは生きていく大きな力になると思います。STEAM の中で詩を味わう、あるいは絵画を味わう、そういったものを取り入れていただいたら、加西市の STEAM 教育っていうのはバランスの取れた非常にいいものになるんじゃないかなと私は期待しております。

○事務局（学校教育課）

ご意見、どうもありがとうございました。1点、先ほど〇がついているところ、つまり小規模校にメリットがすごくある。大大分類の学校よりもメリットがあるというお言葉でしたが、あくまでも大分類、例えば北条小学校、北条東小学校はもう一緒にならずしても、この学校の中できちっとした教育、人数的なところも含めた多様性であるとか、J委員おっしゃったようないろいろな感性的なところを自校の中でも十分な人数の中でできるということなので、空欄にさせていただいておりまして、小小に〇がついているのはデメリットの解消ができる効果がありますよってという意味で、これ〇にさせていただきました。

ですから、むしろ△であるとか、空欄である大大というのは先ほどの説明のとおり、40人、北条や北条東小学校であれば70人、80人おりますので、あえて一緒になると160人以上の人数になってしまうということで、あえて連携するような場を設定するよりは自校でやる方がよいということなので、そういった捉え方でお考えいただければと思います。

もちろん、だからといって小小連携をしないというわけではなくて、中学校に向けた体験入学やそれまでのお互いを知り合うというようなことで、メリットは出していないといけないと思います。

○会長

小学校の立場からいかがでしょうか。

○H委員

J委員からこの小中の連携、特に期待が持てるという話もお伺いしました。この仕組みは良くできていると思います。△のところもあれば〇のところもある。ただし、皆さん誤解を招いてはいけないのは、これ全てできるというものではなくて、F委員から話があったようにこれをやっていこうと思ったら、学校は今以上の働き方改革をしている最中に余計な負担を背負わなければならないということで、この中でも学校がきちんと効果がより期待できるもの、厳選して行っていく必要があると考えてます。

事務局から教育的なデメリット、いわゆる小規模校のデメリットを緩和することはできても、解消することは難しいと説明がありました。素案にこの学園構想の目的を、解消ではなくて緩和ができるということで明記していただくことはすごく大事なことだろうと思います。学園構想をすれば11校が存続できますっていう勘違いをされる書き方になってはいけない。その辺りについては校長会でも話が出ており、これイコール11校の存続は二重丸ということがありませんよってという文面はどこかで必要だろうと、それを今日伝えたいと思ってやって来ました。もともとの小規模校の解消ということになれば、泉校区の北部4小学校、特に3小学校についての効果は確かにあると思います。

STEAMの関係上、連携を組んでやっていく機会が増えてくると思いますが、これはすぐに明日から、今年からできるかといえばなかなかできないので、学校はその準備を整える期間として、助走期間は設けながら、各学校の実態を踏まえてやっていかなければなりません。

んし、そうじゃないとできないと考えています。期待は大きい話になるかもしれませんが、一気にそのように加速できるものではなく、準備を整えて学校でやるしか方法はないのかなと考えています。

○会長

大事なお意見いただきましたので、まず次回は提案の中で、また答申を述べていく際に、今おっしゃったことも盛り込んでいけるよう検討していきたいと思います。そろそろ時間ですので、まだ発言いただいていない方に全体を通して一言いただきたいと思います。

○OK 委員

初めのアンケートのことも、何も発言しませんでした、「素案の再検討が必要」という方、結構おられます。ただ文書を配付して、これに答えてくれというと、なかなか分からないままに答えられている方が多いと思います。十分説明をしてアンケートを答えるのとだいぶ中身は変わってくるのではないかなという思いを持っております。

それで、この委員会ですが、中学校2つ、小学校存続とそういう基本的な考えでどうかという市長からの質問ではないかなと思いますが、ここでどこまでやるかということについては、やはりいろんな疑問を取り除くということは必要ではないかなと思います。

全員が全て賛成するようなことはまず難しいと思いますが、最大公約数でまとめるにしても、答申はどういう格好に持っていくのか、ちょっと難しい問題だと思います。

おおむねのような形の答申でいくのか、なかなかみんな一致する案が出ないとは思いますが、いわゆる2校、11校でいくのかという基本的な線でまとめるのか、その考え方をお聞きしたいのですが。

○会長

事務局から答申のまとめ方について現時点でのお考えがあればお願いします。

○教育部長

おっしゃるとおり、この場の各委員のご意見もそうですし、アンケートも必ずしも大多数という結果にはなっておりません。細部の意見ももう少し読み解かないと分からないと言いつつも、結論に持っていくのは本当に難しい作業であると考えています。

ただ、それらを踏まえて何らかの方向性は事務局とすればご提示するべきと。その役割というものはこちらにあらうと考えておりますので、何らかの方向性、できるだけ曖昧に終わることのないようなものにするつもりです。

ただ、そうなった場合にはおっしゃるとおり私どもの示すものに対してのご意見、あるいは配慮すべきポイント、注意点と言いますかね、いろんなものがそこには付け加わるものと考えておりますので、答申という形で最終的にはこの場から市長にお返ししなければなりませんので、その際にはそれらを付帯意見のような形でつけることができないかというよ

うに思っております。大枠の骨組はお示しをしながらも、それに当たってはこういった配慮、注意点が必要と、そんな最終形をめざすことができると考えています。

OK 委員

中学校に関しては、やっぱり 2 校にするのかということですが、通学の問題一番指摘をされていますけども、場所であるとかはこんなところでなかなか決められないとは思いますが、その辺、当然執行者側から提案されて、議会の承認を得るような格好になるのか、また何らかの形で市民に問うのか、その辺はどうです。

○教育部長

この委員会は 9 月末までということで期限を切っております。そして、この 4 年度後半には、一昨年ですか、病院の将来構想を考えるとときに 100 人委員会という形で、できるだけ多くの市民の皆様方に入ってもらった中で、方向性の理解を深め、それに付随するご意見を付加するという作業行程を経てきました。今年度におきましても、その予算は令和 4 年度事業ということで確保させていただいております。今後の作業としましては、この答申案を市長にお返しした後、それを持ってさらに理解を深め、ご意見を付加していくという作業工程を経る予定です。そこで、市として最終的な意思決定をその後に行った上で、次のアクションに向けての予算化、そういう流れと考えています。

OK 委員

答申案ですけれども、こういういろんな意見が出たと。いろんな意見を併記して答申するのか、なかなか一本でまとめて答申というのは難しいと思うのですが、その辺はどうです。

○教育部長

先ほど申しましたように、この場では一応何らかの形の方向性を示し、答申の中でもそれを示しながらも、その方向で行くのであれば、幾つかの付帯意見を付け加えることができると考えております。この検討委員会としてということですね。

なので、そこにはまた両論があるかもしれませんが、その付帯意見についてはある程度の合意形成を図ることができればと、そういった形で答申プラス付帯意見の整理を付けていきたいという考えでございます。

OL 委員

この速報値っていう形だけで、コメントの集計は間に合わなかったんだろうと思う。このコメント理由、意見がない中で今日の話し合いをなさっていうのは、ちょっと無理があるのではないかというのが率直な意見です。これがあってこそ、次の方向性があるって、答申が決まっていくと思うのに、今日の時点でコメントがないのは、全然議論に発展していかないので、今日は一体何の集まりなんだというのが正直なところなんです。ある程度、アンケート

内容は出ていますが、各校区ごとに出ている意見をしっかりまとめたものを私たちに見せていただかないと、今日は一体、意見を述べたくても全然元となる物がないので、次にはもう方向性が決まってしまう。なので、僕たちの委員の意見が今、J委員もおっしゃられていたように私も実際のところ、3校統合して2校にする案もまだまだそんな方向性は決まっていないように思っていたのに、何か次にもう決まっているみたいなの。

ちょっとごめんなさいですけど、出来レースになってしまっているような感じをすごく感じます。もうちょっと私たちの意見とこのアンケートを取ったものとを議論して深められる、もし集計できていなかったら、この会議をもう1回遅らせてもよかったのではないかなと思っています。視察ですが、まだ決まっています。これいつ行くのですかね。

6月27日以降に行のであれば何の意味もないので、ただ見に行くだけなら、もっと早く決めておかないと実際にそれを見て、僕らも意見を述べたいのに、これが決まっていないというのに何を考えていいのか、率直な意見です。

○会長

今日限られた情報の中での議論でしたけれども、次回、コメントの内容について出していただければと思います。それから、視察のこともおっしゃるとおりだと思います。皆さん仕事がありますので、できるだけ早くに計画を立てて、行っていただけたらと思います。

○OM委員

21頁、スケジュール等の説明もありましたが、今回小学校の在り方で、中学校の在り方ってものをそれぞれ議論してありますが、割とテーマが小学校だったら、次が中学校、小学校、中学校みたいにして進んでいる関係で、何か議論が進まずに中途半端になっているような感じがします。できれば大きく変わるであろう中学校の方を先にしっかりと決めて、それで学校構想とかいう小学校の部分は、一定統廃合という理論も出てくるのかも分かりませんが、緩やかな形での在り方ってような方向が、事務局から示されているので、できれば大きく動くほうを先に固めた上で、次の段階へ行く形の進め方をもうちょっとしっかりされてはどうかというのが、今日の議論もL委員の発言にあったように資料が固まらないままで出てきて議論していくっていう、何かしっかりとしたような意見が出せないような状況で進んでいるように思います。そこは進め方をもうちょっと考えていただけたらと思います。

○会長

6月に事務局から大きな方向、方針を示すということでしたので、またそれを待ちたいと思います。

○ON委員

僕も思っていたことを委員が全部言ってくれましたので、ちょっとほっとしています。本当に僕のことですけど、こういう時期にこういう時間を割いて出てきている人間に対して、それなりの議論ができる委員会にしてほしいと事務局にお願いしたいと思います。

それとこの会議自体、誰のための会議なのかというところで、やはり当事者、それから当事者になる親御さん、保護者の方の意見っていうのはすごく大きい部分になってくると思います。そういう意見を聞くべき人のアンケートが1回でいいのかなと。

今回はこのようにざっくりした感じでアンケートを取っているのですが、同じ過程でいいと思いますが、こうこう、こういうふうな感じで、こういうところで協議していて、その中でこういう意見がありました。これについてどうですかっていうのもやっていけばいいと思います。そうすると、9月26日の答申っていうのが、実際ちょっと早いのではないかと思います。この未来の学校構想検討委員会、別に9回で終わらなくてもいいのではないかと。

10回でも20回でもやれば、子どもたちのことなので。これで終わらせてしまうのはいかがなものかなと思います。9月26日にこだわる必要はないというところを強く言いたいと思います。という流れでいくと、27日の学校構想の審議、中学校統合の審議っていうのも、時期尚早だと思います。

○会長

このスケジュールについてはいかがですか。答申を出す時期は9月というところですけど、これについて事務局のほうで改めて説明いただけますか。

○事務局（教育総務課）

今日の説明のとおり、この会議は最初から1年という形で区切りを着けさせていただきたいと思っております。9月への答申に向けて、ひとまずは進めていきたい。それ以降については当然、次の段階、ステップっていうのはあるかと思いますが、この会議につきましては、9月26日の答申に向けて進めていきたい。そのように事務局としては考えておりません。

○会長

では、スケジュール的には提案の方向で、答申提出に向けて最善の議論を行っていくということでご理解いただければと思います。では、委員につながりますでしょうか。

ただ、声が聞こえないですね。ちょっとなかなかうまくつながりませんので、委員にはまた全体をとおしての意見をまたいただいて、この会議録ではないですけども、追加の意見として議事録以外のところでコメントを用意していただいて、それを追加する形でいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○会長

では、時間が過ぎておりますので、これで今日の司会を戻します。

4. その他

(特になし)

5. 閉会

○教育部長

2時間を20分ほど超過してしまいました。申し訳ございませんでした。今日本来ならアンケート、L委員のご意見のとおり議論できる状況にはありません。なので、我々とすれば報告事項ということにしていたのですが、これを受けて様々なお声を頂けたことは、有益なことだったとは思っております。次回には、今後の答申に向けての方向性をお示したいというお話をしました。それは変わりありませんが、合わせてスケジュールにも記していますように学園構想の審議と中学校の統合案についての審議をお示しをしておりますが、学園構想については本日一定の全体像の説明と、それに関するご意見賜りましたので、今日の場のご意見も踏まえて、中学校の方にどちらかといえば重点を置くことで、次回に向けて考えていきたいと思っております。議論をもう少し回数を重ねてというお話もありましたので、その点については議論の進み具合、深まり具合などを踏まえながら、皆さんにもご負担をかけることにはなりますが、その辺を含めて考えながら、必要に応じてというところで本日はご理解いただきたいと思います。

次回が6月27日となっておりますが、事務局としましても当初の考えのとおり視察をこの日までに考えています。なかなか視察先の選定に苦慮しておりまして、本日お示ししておりません。これは本当に申し訳ないところですが、何とか視察先を選定した上で、事前に見ていただくことができればと考えておりますので、そこは頑張っていきたいと思っております。長時間になりましたが、本日は本当にありがとうございました。また、次回以降よろしく願いいたします。

(○委員からのコメント追記)

本会議の名称も「未来の学校構想」検討委員会であるように、社会の変化に伴って「学校」の境界も変化していると考えます。つまり、資源が限られていく中で、教職員などの人的資源も含め、いち「学校」だけで完結しようとするのは、既に学校関係委員からの意見にあったように限界を迎えており、地域や行政という基盤との関係も含めて、せつかくある「学校」という仕組みをどう生かすかという発想が必要だと思えます。

協議事項資料に関連しても、取り組む・取り組まないの判断は、必ずしも学園内一律で考える必要がないのはもちろん、学校内・学級内も一律である必要はないと考えます。常に生活集団＝学習集団の発想でなくてよく、学習などの必要に応じて、例えば大規模校でも他校とICT接続することは効果的でありえます。

今日の議論の中でも、子供たちの意思を重んじたいという意見がありました。ICT活用を含む学びの在り方についても、子供たちが前向きに学んでいく可能性があるところを閉じてしまったり、大人の事情や発想で、ブレーキをかけたりしてしまうのはもったいないと考えます。資料や説明からは、従来の「一律」の発想で、連携にブレーキをかける作用を生む可能性も感じたので、改めてお伝えしました。